
事業報告

平成 21 年度
公開講座概要

総合研究所では、毎年、生涯学習の実践・研究成果の公開・大学の地域への開放という観点から、地域社会との協力関係の構築をめざし「公開講座」を開催しています。

「公開講座」は、(1) 本学が企画・共催 (2) 自治体等との協力 (3) 産官学連携事業で行なっています。詳細については、下記をご参照ください。

【(1) に分類される講座】

〈1〉「奈良大学創立40周年記念」
第30回 せいぶ市民カレッジ奈良大学文化講座

《開講年》1980年

《テーマ》歴史と文化 ～過去からのメッセージ～

《募集定員》300名（全5回）

《会場》学園前ホール

《共催》西部公民館・奈良大学

7月4日

高松塚古墳の壁画の解釈と被葬者

白石 太一郎

高松塚古墳の横口式石槨は、平城遷都直後のものと想定される奈良市石のカラト古墳のそれより後出のものであり、その造営年代は720年前後と想定される。高松塚壁画の男子の群像の一人が持つ蓋（きぬがさ）は、その様式と色から一位以上の人物のものである。この時期一位で没した人物はいないが、死後一位を賜った人物には717年に没した石上麻呂と720年に没した藤原不比等がいる。不比等の墓は多武峰にあったことが『延喜式』から知られるから、高松塚の被葬者の候補としては麻呂が残る。キトラ古墳の壁画からもこの時期の古墳壁画の基本的モチーフは、日・月・星宿・四神など墓室を死者のための小宇宙とするため宇宙観を示す図像であった。高松塚に宇宙観を示す図像以外に男女の群像が描かれたのは、麻呂が死後とはいえ一位を賜った一族の感激を壁画に表したものであろう。それは蘇我氏に敗れて以降の物部氏（石上氏）の苦難の歴史を考えると容易に理解できる。また平城遷都後であるにもかかわらずその墓が藤原京の墓域に営まれたのも、不比等の強行した遷都に反対で、藤原京の留守使として旧都に残った麻呂であれ

ば、これまた理解できる。高松塚古墳の壁画の解釈と被葬者論は一体的になされなければならない。

7月18日

「日本」国号の成立

東野治之

「日本」という国号は、日本人にとって極めて日常化しているためか、その起源や制定時期についての関心は一般的に薄く、専門的研究も低調である。しかし日本人として知っているべき最も基本的な知識であることに異論はないであろう。この講座では、講演者のこれまでの研究を背景に、「日本」は、飛鳥時代に隋に対して使用された「日出処」と同様、太陽の昇るところに近い東を念頭に称された国号であること、その制定は、唐代前期の『史記正義』から、八世紀初頭と確定できること、それはおそらく701年の大宝律令制定と関連すること、この時点では、日本が自国を、唐に対して東の辺境国と自認する意味を持ったことなどを述べた。また関連して、「日本」以前の「倭」との違いや、中国人による「日本」の発音が、「ジャパン」としてポルトガル人によって世界に広まったこと等にもふれた。

8月1日

玄奘三蔵と正倉院宝物

三宅久雄

正倉院に伝わるいわゆる聖語蔵経巻の中には、唐代に書写された経巻もあり、その中に玄奘が漢訳を終えたばかりの経典を書写したと考えられる経巻があることが明らかになった。また正倉院にある厨子残欠のうち、金銀泥で絵を描いた扉4枚がある。仏像に混じって僧侶と邪鬼を大きく描いていることが注目される。これは経典請来のためにインドへ行った玄奘と、その途中、砂漠で夢にあらわれた大神ではないかと考えた。玄奘の経典漢訳の最後を飾ったのは大般若経600巻の大事業であった。わが国では平安時代以降、大般若経を納める厨子に玄奘と大神(深沙大将)を描くことが多かったところから、正倉院の厨子は大般若経を納めたと考えた。この扉絵は東大寺戒壇院の華嚴経厨子扉絵とともに鑑真将来の図像をもとにしていると考えられる。鑑真は来日したときに玄奘の旅行記『大唐西域記』を携えていた。鑑真は必ずや玄奘の偉業を意識したに違いない。玄奘はインドから仏舍利、経典、檀像を中国に伝え、鑑真もやはりそれらを日本に伝えた。

9月5日

ブラジル訪問 －移民100周年記念式典に出席して－

池田 碩

移民開始から100年を迎えたのを機に2008年4月から6月にかけて、日本とブラジル両国で記念式典が挙行された。

ブラジルでは、最初の集団移民船「笠戸丸」が神戸を発ってサントス港に到着し、入植地へのベースとなったサンパウロ市やパラナ州のローレンシア市で、日本から皇太子殿下を招き盛大に式典とお祭りが進められた。

移民の総数は25万人とされるが、現在その子孫は5～6世に至り約150万人に達し、地球の丁度反対側に位置するブラジルが日系人最多の国となっている。

私も各地の行事に出席するとともに、サンパウロ大学や博物館などで資料を収集してきた。さらに日系の家庭を訪問させてもらい、入植時から現在に至る家族史をたどらせてもらう機会もできた。

帰国後、それらの記録や資料などの整理も終えたので、記念行事の状況を中心に、この国の現状について報告した。

9月19日

奈良の祇園祭

河内 将 芳

祇園祭といえば京都、そう考えている人が多いなか、実は奈良にもかつて祇園祭があったことを古文書や古記録をもちいて紹介した。ここでいう奈良とは、現在の奈良市、さらに限定された東大寺の西側門前を意味する。中世では、東大寺郷とよばれた地域である。ここでは室町・戦国時代に祇園祭がおこなわれていた。具体的には、東大寺郷を構成する転害郷・今小路郷・中御門郷・押上郷が、京都の祇園祭と同じように、造り山や舞車、笠鉦などの風流をこらして巡行した。京都の祇園祭は応仁の乱後、33年間にわたって中断した時期があったが、そのあいだにも奈良の祇園祭はおこなわれていた。ところが、それも戦国時代の終わりごろになくなってしまう。京都の祇園祭は、逆にそれ以降に華やかさを増していくのと対照的である。この違いがどこから来るのか、今後とも考えていかなければならないテーマとして話をむすんだ。

〈2〉「奈良大学創立40周年記念」

第5回 高の原カルチャーサロン 奈良大学心理学講座・国文学講座

《開講年》2005年

《テーマ》前期：人間関係とこころの健康 後期：歴史と文学

《募集定員》200名（全6回）

《会 場》奈良市北部会館市民文化ホール
《共 催》(財)奈良市文化振興センター・奈良大学

5月16日

自己理解から始まる人間関係

林 郷 子

よりよい人間関係を築こうと思ったら、まず相手を理解することが大切です。しかしそのためには、自分は相手にどのようなイメージを抱いているのか、相手に対してどのような感情を抱いているのかなど、自分の内面と向き合う必要があります。自分のところを通してこそ、相手の姿が見えてくることがあるのです。また、私たちは無意識にある認めたくない自分の姿-影-を相手に映し出して見ていることがあります。他者の姿を通して、自分自身への気づきを得ることができることもあるのです。このように、自己理解と他者理解は表裏一体といえます。人間は他者との関わりの中で生きている存在であり、自分を理解し自分が変わることができれば、結果として相手との関係性も変わってくる可能性があります。

人間関係は確かに難しいものであり、多くの危険性を含むものですが、だからこそ多くの可能性や発展性を含んでいるともいえるのではないのでしょうか。

5月23日

人が癒す不安とうつ

前 田 泰 宏

人はところに悩みや問題を抱えた時、不安や抑うつのような不快で否定的な感情を体験することが少なくない。一般に、不安や抑うつは、「私」という存在様式が揺らがされたり、挫折させられることで生じる、対処することがなかなか困難な感情である。

本講演では主として、人間関係の「中」や「場」で生じる「対人不安」と、自尊心や安心できる人間関係の危機に由来する「抑うつ」の問題を取り上げ、その状態像や発生のメカニズム、ならびに回復のプロセスについて論じた。

不安や抑うつからの回復のプロセスにおいて、「自分は他者から蔑ろにされることなく、大切にされている」という認知や感情が伴う自己-他者関係を持てることが非常に重要であり、そのような人間関係を基盤にして自分の生き方の見直しが可能となるということについて、特に詳しく論じた。

5月30日

非行や犯罪から学ぶ親子関係・人間関係

友 廣 信 逸

最初に最近起こった大阪府西淀川の女兒虐待事件及び兵庫県小野市の男児虐待致死事件を取り上げ、兇相に係属した児童虐待の統計推移、その急増ぶりを紹介した。さらに虐待親の続柄や態様の統計を紹介しながら、親が何故子どもを虐待するのか、家庭に何が起きているのか問題提起した。

次に、これも比較的最近に起こった秋葉原無差別殺傷事件などを取り上げ、さらに少年非行の戦後の統計を見て、戦後の経済成長の変化や文化の変遷による家庭環境の変化を指摘し、また一方で不登校やニート・引きこもりが増えている実情から対人コミュニケーションの変化、フラストレーション・トランスの低下を指摘した上で、最後にドロシー・ノルトの「子は親の鏡」の詩を紹介した。

10月3日

『太平記』の世界

長 坂 成 行

南北朝の抗争を描いた『太平記』の中で、後醍醐天皇は種々の意味で強烈な印象を残すが、これに対する北朝の天皇の代表として描かれるのが光厳院である。後醍醐不在の時期、中継ぎのような型で武家政権に擁立され、六波羅探題滅亡の際には、数百名の武将たちが自害する血の海の中で、茫然としつつ生きながらえる。足利政権の混乱期には南朝方に捕らわれ、数年間も幽閉の身となる。『太平記』作者はその批評的章段の中で、院を「幼児の乳母を憑むがごとく、奴と等しく成りておはします」と揶揄するがごとき評価を下す。『太平記』の終わりに近く、出家した院は西国修行の旅に出、庶民の生活苦を実感し、また南朝の天皇と会い、乱世を回顧する。この場面は史実的には虚構と思われるが、謙抑かつ自省的であったと推測される院の姿を伝えて興味深い。晩年は山深い丹波山国庄の常照皇寺に隠棲し、仏に仕えつつ生を終えた光厳院の一生をたどってみた。

10月10日

たなばたの歌

－『万葉集』と『古今和歌集』の間－

滝 川 幸 司

七夕。私たちはこの伝説を、七月七日の夜に、牽牛が天の川を渡って織女に会う話として理解している。しかし、それは、千年前の人々とは異なる常識である。七夕は、元来中国の伝説であるが、中国では、天の川を渡るのは織女である。化粧をし着飾った織女が天の川を渡る様子が、多くの漢詩に詠まれている。この伝説を学んだ古代の人々は、話を変容させる。万葉集の七夕歌

を見ると、ほぼすべて牽牛が川を渡ることになっている。しかも、牽牛は舟にのって渡る。舟による渡河は中国には見えず、万葉集独特とってよいであろう。これは、自分たちの風習・生活に引きつけて、七夕伝説を再生したといえる。ところが、平安時代に入り、古今和歌集の七夕歌には、織女が渡る例が見える。中国の伝説に即した詠みぶりである。しかも、古今集には、万葉集と同じく牽牛渡河の歌もある。つまり、中国の伝説通りに織女が渡る形式と、日本風に牽牛が渡る形式との二つが平行しているのである。私たちが、平安時代の七夕作品を読むときには、牽牛が渡るという常識を捨て去り、作品毎に、どちらが渡るのかを判断しながら読まなければならないのである。

10月17日

「芭蕉」という利権

永井一彰

没後、芭蕉の書き残した『おくのほそ道』は京都の老舗書肆井筒屋庄兵衛によって元禄15年に出版され、明治に至るロングセラーとなっていった。ベストセラー・ロングセラーに重類版（海賊版）はつきものであるが、『おくのほそ道』にもそれらしいものが幾つか残る。さらに興味深いのは、重類版を没収した正規版元の井筒屋が、それら重類版を『おくのほそ道』の関連商品として売り出していることである。これは、『おくのほそ道』1作品に留まらず、『俳諧七部集』などにも見られる現象で、そのことは芭蕉関係書の著作権が近世の本屋にとって大きな利権であったことを意味している。「俳聖」と称され、俗っぽい欲望とは無縁であったというイメージが強い「芭蕉」であるが、その没後、彼の著書が書肆の欲望にまみれ生き残って行くさまを辿ってみた。

〈3〉「奈良大学創立40周年記念」 第3回 上方文化講座

《開講年》2007年

《テーマ》天下を動かした大阪の時代

《募集定員》180名（全2回）

《会場》さいかくホール

《主催》奈良大学

《共催》大阪府

11月28日

百舌鳥・古市古墳群とヤマト王権

白石 太一郎

4世紀後半まで奈良盆地に営まれていた倭国王墓と想定される巨大な前方後円墳は、4世紀末葉から5世紀にはすべて大阪平野の百舌鳥・古市両古墳群に造営されるようになる。この王墓の

大阪平野への移動については、奈良盆地を本拠とするヤマト王権が単に墳墓だけを大阪平野に移したに過ぎないとする説がある。しかし基本的に古墳がその政治勢力の本貫地・本拠地に営まれるものであったことからこの説は成立しがたく、大阪平野の勢力が倭国王権を掌握したものと理解すべきであろう。ただそれは王朝交代といったものではなく、本来的に大和・河内（和泉を含む）の勢力で形成されていたヤマト王権のなかでの盟主権の移動にほかならないと思われる。この時期朝鮮半島では高句麗が南下し、南の百済・新羅・伽耶を圧迫する。鉄資源などを半島にたよっていた倭国も百済などの誘いによりこの戦いに参加する。こうした東アジア世界の動乱に、それまでの宗教的・呪術的性格の強い奈良盆地の勢力では対応できず、かわってそれまでから王権の中で朝鮮半島との交渉・交易などを担当していた大阪平野の勢力が直接王権を担ったのであろう。百舌鳥・古市古墳群の成立は、こうしたヤマト王権の大きな変革を物語るものにほかならない。

12月5日

信長・秀吉・家康の城

千田嘉博

戦国期から近世初頭にかけての城郭の展開を、信長・秀吉・家康の城を軸にたどることが、本講演の目的である。信長の初期の居城であった清須城は室町幕府の将軍の館を手本にしたものと考えられ、一般的なイメージとは異なり信長は最初から特別な城を築いていたわけではなかった。将軍の館は「洛中洛外図屏風」などから推測されるが、今年度整備が完了した岐阜県飛騨市の江馬氏下館は、将軍館を手本にした武士の館を大規模に整備した例で特に注目される。

信長が本格的な戦国大名としての居城を築いたのは愛知県の小牧山城にはじまり、そうした城づくりが岐阜城へと受け継がれた。城郭史上に名高い安土城は、近年、滋賀県の安土城郭研究所による発掘で新たな解釈が示され、それは研究だけでなく文芸作品にも影響を与えた。しかし再検討してみると、滋賀県教育委員会の解釈には基本的な解釈や資料操作に疑問があり、評価としては変更が不可避であるといわざるを得ない。

信長を受け継いだ秀吉は大坂城を築いた。最近発見されたオーストリアの屏風によって、大手口、京橋口、玉造口の三方に馬出しと呼ぶくふうした出入口をもった城郭であったことが事実になった。こうした城づくりは京都に築いた聚楽第や伏見城にも見られ、一貫したものであった。馬出しを用いた城郭プランは家康の駿府城や名古屋城にも認められ、各地の近世城郭を構成した重要要素として継承されていった。

〈4〉「奈良大学創立40周年記念」 第9回 世界遺産講座

《開講年》2001年

《テーマ》世界遺産とその周辺

《募集定員》100名（全6回）

《会 場》なら奈良館
《共 催》なら奈良館・奈良大学

4月12日

光明皇后と阿修羅像

東 野 治 之

平城京遷都とともに造営の始まった興福寺は、藤原氏の氏寺であるとともに、飛鳥時代の四大寺の一つ、弘福寺の寺格を継ぐ官の寺として、奈良時代以降、大きな地位を占めた。この寺では、藤原氏や皇族による堂宇の建立が、平安時代初めまで断続的に続いたが、その一つに光明皇后による西金堂の造営がある。この堂は皇后がその母、橘三千代の一周忌に合わせて造営させたもので、創建の堂は失われたものの、創建時の仏像として、八部衆と十大弟子の大部分が残り、とりわけ八部衆の一つ、阿修羅像は、天平彫刻の傑作として名高い。この講座では、西金堂が『金光明最勝王経』の所説に基づくという事実を踏まえ、阿修羅像が、同経に説く「懺悔」の心情を表したものであり、その背後に女人の救済を求めた光明皇后の発願があったことを推定した。

5月24日

歴史に学ぶ世界遺産観光

鎌 田 道 隆

本来の世界遺産という考え方は、観光とは無縁のもので、むしろ対立的関係にある。実際に世界遺産として登録されたことにより、多くの観光客が押し掛け、遺産の価値が失われかねないという事態も発生している。しかし、世界遺産には皆んなの宝物という考え方もあり、また現実にも観光と世界遺産は深く結びついてしまっている。こうした現状を踏まえ、江戸時代の観光(旅)を素材として、学習型観光について学ぶ事例を紹介した。

まず、歩くことによる空間と時間の移動が、バスや電車では発見できない多くの価値を共有させたこと。案内人による地域単位の異文化への接触・理解が成立していること。江戸時代に早くも文化的景観への認識が深められていること。江戸時代の旅人たちが、まち観光、みち観光、しごと観光、くらし観光、れきし観光の成果をみごとに故郷へ持ち帰っていることなどを確認した。

6月14日

世界遺産「古都奈良」に息づいた人々

水 野 正 好

平城京は僅か70余年間の都。しかし、そこに息づいた人々は、未曾有の栄華、香り高い文化を形成した。社会の基調となったのは仏教。仏教の全容が理解され、大部の一切経書写、全国各寺

への願経に伴い、種々の過悔を中心とする仏儀が社会に浸透していく。勤行につとめる僧侶の一方に、苦悩する庶民、病悩患う人々の救済につとめる僧侶が誕生。人々も仕役されるだけでなく自ら労力、資材を提供し奉仕する動きが表面化する。そうした雰囲気を醸成したのは聖武天皇・光明皇后を中核とした行政組織と宗教組織である。長屋王や藤原4家の篤い被護は、傑出する良辨、行基、来日した菩提僊那、鑑真、渡唐帰国した玄昉などの動きによって、仏教国家ともいべき盛時を生む。こうした頭脳の勧募に応じて伽藍を建造し、仏像創出に日々を過した卓越した技術者があり、造寺の地業や建築材の切出し運搬に深く係った庶人、病人などの参加こそ、この時代の大きな特色であったと言える。

7月19日

吉野・大峰の文学と風景

浅田 隆

吉野郡は奈良県南部山岳地帯のほぼ全域を占めている。そしてこの吉野郡の山脈・世界遺産大峰山奥駈道にかかわる役の行者の伝説をアレンジして成立したのが坪内逍遙の戯曲『役の行者』。また広大な吉野郡の入り口の東西に流れる吉野川及びその支流に散在する自然・歴史をベースに成立した歌舞伎「義経千本桜」や「妹背山婦女庭訓」、さらに作者自身の歴史観などを巧妙に混ぜて成立している谷崎潤一郎『吉野葛』。この二作品を紹介し、作中に描かれた設定や展開とかかわる世界遺産について、スライドで紹介した。

8月9日

日本人は山に何をみてきたか

－富士山を例に－

堀 信行

富士山が描かれた絵画や詠まれた歌、真富士山や田子の浦などの地名、あるいは富士講を中心とする信仰世界を手掛かりに、われわれ（日本人という表現の関係も考慮）は、山に何をみてきたのかを考えてみた。絵画に見る富士山の山容の変化は、中世の平安～室町には三つ峰と細高の富士、近世の江戸中期頃までは三つ峰と広がる裾野、江戸中・後期から近代の明治以降は山頂の形状は一定しない傾向がある（竹谷、1998ほか）。他方、真富士山から望む富士山の景観とこの地名の考察から、富士山の表（正面）側を望む南西―北東方向の景観軸が想定された。また富士講に関わる富士参詣曼荼羅図の景観分析から、現在より西方に位置した田子の浦と村内浅間神社（推定）と山頂を結ぶ信仰軸が浮かび上がる。この信仰軸は上述の景観軸とほぼ重なる。さらに万葉集の山部赤人の歌の再考から、噴煙を上げ続ける火の神の富士山の鎮めの意味を込めた歌と考えられる。山岳信仰にみる三つ峰は、火の神との関係が深いことを指摘した。

9月6日

伊能忠敬がみた大和路の風景 －地図に記した寺院と寺社－

土 平 博

伊能忠敬による全国の測量は寛政12（1800）年の奥州街道・蝦夷地にはじまり、文化年間には大和国内におよんだ。大和国内の測量は第6次にあたる測量で、江戸を文化5年1月25日に出発し、四国を測量した後、大坂を経由して、同年11月28日に河内国高安郡と大和国平群郡の境である十三峠を越えた。この第6次測量は「四国・大和路測量」とされている。大和国内の測量対象地域は奈良盆地と吉野山であった。測量ルートを伊能大図や測量日記に基づいて確認し、測量区間と無測区間を提示しながらその特徴を示した。1ヵ月近くの大和路測量は有名寺社を結んだルートであった。伊能は日記のほかに「大和国寺社霊宝録」を残している。寺社建築物の寸法、宝物の名称、なかには、建物の焼失や再建の特記事項まで書き留めている。大和路測量では、本来の目的である測量と異なる側面がみえてくる。

〈5〉第18回 桜井市生涯学習シリーズ 奈良大学教養講座

《開 講 年》1992年

《テ ー マ》郷土を学び、新しい時代を知る

《募集定員》100名（全5回）

《会 場》まほろばセンター

《共 催》桜井市教育委員会・奈良大学教養部

5月17日

レバノンの壁画地下墓を修復する

西 山 要 一

レバノン共和国南部のティール市（スール市）郊外ラマリ地区に所在するローマ時代壁画地下墓TJ04の2004年から4年間にわたって奈良大学が実施した保存修復研究を紹介した。

この保存修復研究には、奈良大学とレバノンの大学・研究機関の保存科学・修復学・考古学・地理学・美学美術史学の研究者や大学生、ティール市・県民など延べ100名が参加した。

その結果、地下墓TJ04は、墓室の四壁を石柱・灯台・波形・オリーブの壁画で、さらに天井を大輪の花の壁画で飾り、四壁の納棺棚と床下には鉛製・陶製・木製の21の棺を収め、ガラス瓶・装身具・陶製壺・ランプなどの遺物が副えられていた。これらの華やかな装飾と遺物から、ティールに住む地位の高い家族が紀元1～2世紀に築造した墓であることを明らかにした。

墓室・納棺棚の修復を伝統的な石工道具と技術を駆使して行い、壁画の赤外線調査、顔料とガラスの材質・製作技術の分析、墓室の温度・湿度などの環境調査の科学研究も行った。

古代ローマ帝国の一都市でありながらティールはフェニキアの伝統を色濃く受け継ぐ独特の文

化を持つことが明らかになった。

6月21日

60年を送り、30年を迎える中国

蘇 徳 昌

中国大陸に共産党政権ができてから、今年で60年になるが、前半の30年は階級闘争に明け暮れ、後半になってようやく国民による、国民のための、国民の改革開放に着手することができた。経済成長を国の目標に掲げ、紆余曲折しながらも計画経済から一応の市場経済への大転換をやり遂げ、GDPでは世界第3位の経済大国にまで押し上げ、国民の生活は著しく改善された。しかし、経済成長のモデルが外需主導型・粗放型で、今回の百年に1度しかないと言われる金融危機の影響を諸に受け、はっきりした出口が見つからないのが現状である。外需より内需、投資より消費にウエートを置くしかないが、やはり一番は人口の大半を占める農民と農村市場である。抜本的な解決策としては、土地の農家使用権・請負経営権の財産権化およびその移転・譲渡・賃貸・相続・担保を着実に実行に移すだけでなく、土地の所有権も農家に渡し、私有化し、土地を資源から資本に変えるということではないだろうか。徹底した市場経済を土台にする政治の民主化が中国の今後の30年の主な課題になると思う。

7月26日

幕末・明治期における日仏交流

田 中 良

1854年の開国以来、駐日大使ロッシュ、軍事顧問団の砲兵大尉ブリュネ、小説家ロチなど、多くのフランス人が日本にやってきた。それに伴い神戸と堺の港を舞台に、日本の藩兵とフランス兵との間で重大な事件が起きている。砲兵大尉ブリュネは旧幕府に協力して、箱館で新政府軍と戦っている。小説家ロチは『お菊さん』の中で、日本を異国情緒豊かに描いている。では彼らは「神秘の国」日本をどのようにとらえ、何をもたらしたのか。一方日本では、明治中期からドイツが台頭してきて、フランスは影を薄くしてゆく。フランスが肯定的に意識され始めるのは、明治の後半、永井荷風の『ふらんす物語』が出版されて以降である。大正初期には島崎藤村が渡仏し、帰国後その体験を基に『新生』を発表している。では彼らにとってフランスとはいかなる国であったのか。このように日仏の両面から、幕末・明治期における日仏交流について検証した。

9月13日

英米などの人名に関して物知りになろう

水 光 雅 則

英語の姓は父親の個人名に由来するものがある。Dave Petersonは、字義的には「Dave」と「Peter

の息子」の並列である。所有の「の」は-sだけでも表すことができる。Julia Robertsの字義は「Robertの子であるJulia」である。

アイルランドではmacが息子であり、Douglas MacArthurの字義は「Arthurの息子であるDouglas」である。所有の「の」はofでも表せるが、-fを発音しないとoになる－Sean O’Casey。Scott Fitzgeraldのfitsも「息子」である。これらは、直接の父親の個人名ではなく、「父方の家系の名になった。

ポーランドの-skiやロシアの-ovichも「息子」である。アラビア語のOsama bin Ladenのbinもそうであり、bin Ladenの二語で姓である。

言語によっては、貴族の所有地や平民の出身地などをvon, van, da, deなどで表していた。「小野の小町」「宮本村の武蔵（タケゾウ）」の「の」と同じ機能である。Leonardo da VinciのVinciは地名である。Ludwig van BeethovenのBeethovenは「大根畑」である。da Vinciやvan Beethovenの二語で一つの姓になった。

英米の個人名、特に女性名には、日本と同じく流行り廃りがある。

10月18日

物質と宇宙の謎を解く鍵 －対称性の破れ－

横 田 浩

2008年のノーベル物理学賞日本人受賞の際に、「対称性の破れ」という言葉が、テレビ・新聞を飛び交った。物質を構成する（現在知られている）最小単位である「素粒子」とその間に働く力（相互作用）を研究する素粒子物理学は、我々が知っている最大の世界である「宇宙（の始まり）」の情報を教えてくれる。その素粒子と宇宙の謎を解くために重要な原理となっているのが「対称性の破れ」である。

宇宙誕生時には、1つであった力（相互作用）が、宇宙の膨張とともに対称性が破れることによって、現在知られている4つに分離したというシナリオや物質の質量の起源を与えたのが、南部博士の「自発的対称性の破れ」の考えである。一方、宇宙誕生時には、同数あったと考えられている物質と反物質が、現在のような物質のみの世界になった理由（の1つ）を説明したのが小林・益川両博士の「CP対称性の破れ」の起源の発見である。これらをもとに現在の素粒子物理学の概要を簡単に解説した。

〈6〉 第12回 こおりやま市民大学

《開 講 年》1998年

《テ ー マ》歴史・文化や今日的課題に学び、21世紀を夢と希望に満ちた人生に

《募集定員》100名（全6回）

《会 場》大和郡山市中央公民館

《共 催》大和郡山市中央公民館・奈良大学

6月13日

野獣から田畑を守った農民の地域遺産 －シシ垣（猪鹿垣）－

高橋 春成

シシ垣は、漢字で「猪垣」、「鹿垣」、「猪鹿垣」と書く。遺構といえば、これまで貴族や豪族、武士などの遺構が注目され、農民の遺構であるシシ垣の多くは等閑視されてきた。平成17年施行の文化財保護法の一部改正により、「文化的景観」が新たに文化財に位置づけられ、シシ垣も「農林水産業に関連する文化的景観」として注目されるようになったことは意義深い。これを機に、今後さらに、全国のシシ垣のデータベース作り、シシ垣の文化財指定、シシ垣の保存と有効活用についての取り組みを推進する必要がある。

シシ垣には当時の獣害の甚大さとそれに対処した農民の生活史が深く刻まれていて、「地域の財産」として極めて貴重である。歴史的・文化的に貴重であるとともに、地域の子供たちの郷土学習、総合学習、環境学習の教材にもなる。また、今日のイノシシやシカなどの農作物被害対策においてシシ垣にみられる先人の知恵や団結力に学ぶことも多いし、エコミュージアムやエコツアーの対象にもなる。地域住民にとっても来訪者にとっても、シシ垣は貴重な学びの場・感得の場となる。

6月20日

いま明治維新に学ぶべきこと

佐々木 克

I 失敗に学ぶ

幕府と朝廷は両方とも、度重なる政争と内部対立の結果、幕府の老中は幕末の8年間に26人退職し、朝廷は朝議にあずかる人材を3年間で38人政治の場から追放した。その結果、朝幕ともに人材が枯渇し政治能力を失った。そのような朝廷と幕府を廃絶したうえで新政府が成立したのである。危機を自覚しない幕府と朝廷は自ら崩壊したのだ。

II 成功に学ぶ

- ① 王政復古の政変と大久保利通…「皇国」が倒れるのを見ることは耐えられない、だからやむをえず政変の決行を決断したと言い長州藩に協力を求めた。危機意識と行動力。
- ② 征韓論政変と大久保利通・岩倉具視…国家将来のため戦争になりかねない西郷派遣には反対せざるを得ないと、遺書まで書いて決断した。岩倉具視が支持したことによって国家が逸脱する方向を食い止めた。何よりも国家を優先する。目先のことより将来だ。
- ③ 明治十年・地租軽減の詔と大久保利通…土族反乱は一部の地域の問題だが、農民蜂起は全国の問題だとの判断で、伊勢暴動の直後に地租の軽減を提言し、9日後に6%の減税が布

告された。歳入減は内務省を中心とした行革で補填した。迅速かつ根本的な対応。

6月27日

推古朝都市計画の復元

酒井 龍一

西暦600年頃、推古天皇・聖徳太子（厩戸王）・蘇我馬子（大臣）が主体となり、飛鳥に「首都」、斑鳩に「副都」、そして両者を連結する幹線道路（通称「太子道・筋違道」）を根幹とする都市計画を設定し、建設を開始した。都市枠組の基本的特徴は、基本尺が「高麗尺300尺（約106m）」、主軸が「西偏約20度」、連結道路幅が「20m強」であった。

7月4日

中国は世界同時不況をどう乗り越えるのか

蘇 徳 昌

金融危機がもたらした世界同時不況に直面し、中国政府がいち早く打ち出した積極的な財政・適度な金融緩和・緊急行政措置は一時的な対策であり、外需主導型を内需主導型、世界の「工場」を「市場」、投資より個人消費、労働集約型を技術・資本集約型、資源高消費を省エネ、環境汚染を環境保全へ転換することはできない。では、どうすればこの不況を乗り越え、更なる成長・発展を遂げられるのであろうか。

日本と比較してみると解決策が見えてくるのではないか。両国とも経済の方式は原材料・エネルギーを輸入し、加工して輸出する加工貿易型であり、相似している。しかし、根本的な違いは「加工」したモノが日本は付加価値が高く、ブランド製品が多いのに対して、中国は付加価値が非常に低く、ブランド製品は皆無に近い。「加工」するヒトが違うからである。日本人は儒教や啓蒙思想等外来文化を学ぶのに長け、日本の伝統と融合させ、尚且つ百年以上に亘って教育に力を入れてきたので、高度な学力・教養・価値観を具えるに至った。ところが、中国人は辛亥革命・五・四新文化運動、特に30年の階級闘争等で、儒教のいい側面まで打ち壊し、自由・平等・民主・博愛・人権の啓蒙も夭折してしまった。政治の民主化・経済の市場化の前に、あるいは同時に近代化の原点に戻り、中国のルネッサンスを興すのが最善の道であろう。

7月11日

大和の国府と郡家

寺崎 保広

古代国家の地方行政は、中央から派遣された国司と、現地採用の郡司とが担っていた。また、それぞれが執務する場所を国府・郡家という。

最初に国司・郡司・国府・郡家について、律令の規定や発掘調査の成果などを用いながら、制

度のあらましを述べた。

次に、国司と郡司との関係がどのようなものであったのか、特に、国司はどのようにして、郡司を支配することが出来たのかという問題について、「国府における儀式」と「文書行政」という二つの側面から説明を加えた。あわせて、国府と郡家の構造の共通点、および相違点を論じた。

以上をふまえて、大和国府と郡山市域に想定される郡家（おそらくは添下郡家）の場所について、従来の研究を紹介し、また、発掘調査による候補地についても論じた。

7月18日

陞官図 - 中国の出世スゴロク -

森田 憲司

本日おいでの皆さんのほとんどは、「陞官図」という言葉をご存じないと思う。「陞官図」の実物を見ていただきたい。まさに「官」を「陞（のぼ）る「図」で、大きな紙に書かれているのは、清朝時代の官職とその官職に相当する官位のみだ。今から30年以上前、台湾でこれを見つけた輸入書籍屋さんが、「清代官制資料」と銘打って広告したのもわかる。しかし、じつは、これは「すごろく」で、参加者は独特のサイコロや独楽を使って、出世を競う。言わば、中国の官僚の人生ゲーム。このゲームは、少なくとも唐代にはおこなわれていたようであり、今でも遊ばれていることは、最近でも新製品が売られていることからわかる。さらに、日本や琉球、朝鮮にもこのゲームは伝わり、それぞれの土地でバリエーションを生み出した。北京に住む朝鮮族の老人は、子供のころ遊んだことがあると教えてくれたし、朝鮮総督府の『朝鮮の郷土娯楽』（1941）には、各地でその存在が報告されている。

今回の講演では、「陞官図」のバリエーションを中心に、中国のすごろくのいろいろを見ていただくとともに、「陞官図」を生み出した中国の人々の心＝「昇官発財」、「加官・晋禄」の世界を、中国の民間版画である「年画」などで紹介した。

〈7〉公開講座フェスタ2009

《開講年》1999年

《奈良大学担当開講日》11月6日（金）

《講師》寺崎保広 教授

《演題》天武天皇がつくった国、日本

《募集定員》180名

《会場》さいかくホール

《共催》阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット

〈8〉「奈良大学創立40周年記念」 社会学部社会調査学科開設記念公開講座「夏の夜話2009」

《開講年》2009年

《テーマ》目標を掲げて進む、新しいまちづくり

～コミュニティからアソシエーションへ～

《募集定員》60名（全3回）

《会場》奈良市中部公民館

《主催》奈良大学

7月17日

コミュニティを創る ～〈選べる縁〉ネットワークとその担い手たち

中 道 實

いま地域では、住民の絆、相互扶助・信頼が薄れ、生活の疎外や孤立化が強まっている。一方で危機対応能力の低下、他方で社会協力への無力化・無関心化が深まり、地域における生活の安心・安全が根底から揺らいでいる。「伝統的な地域共同体」は衰退し解体した。

こうした状況のなか、地域には、ボランティア・NPOなど、さまざまな課題に対応する市民活動が叢生している。これらの市民活動は人々の信頼関係、相互扶助の精神を培い、協力的行動を育むソーシャル・キャピタルを醸成し、それはまた、新しい市民活動を生む母体となっている。コミュニティの再生には、これら両者の循環を促進することが期待される。

この主題から、子育てサークルや在宅介護支援等々の市民活動の実践事例を通して、特定の生活問題をめぐる共通の関心・問題を契機とする、人々の任意で自由なボランティア・アソシエーション活動が新しいコミュニティを創っていく様態を追究した。

このコミュニティは、自発的で自由な人間関係を原理とする〈選べる縁〉を基盤にしている。〈選べる縁〉人間関係は「地縁」や「血縁」に基づくものではない。子育て、子どもの見守り、青少年育成、高齢者福祉・介護等々、特定の関心と問題解決のために、互いに相手を選び合う自発的で自立的な「選べる縁」人間関係が信頼、互酬性の規範、協力的行動のソーシャル・キャピタルを生み、その参加者が「事実としての地域」ではなく、「意味を付与した地域」「意味を感じている地域」で「共に生き合う」コミュニティを再生させていく。現代の地域社会に可能なコミュニティは、もはやかつての「伝統的な地域共同体」ではなく、こうした〈選べる縁〉ネットワーク＝アソシエーション・コミュニティである。

7月24日

子どものためは、大人のため？ －地域交流ネットワークづくりの課題－

松川 恭子

最初に伝統的コミュニティの希薄化について述べ、次に、日本においてソーシャル・キャピタルに関する意識が高まりつつある現状について説明した。さらに、この動きと連動した学校と地域のあいだの連携の動きについて具体的な事例を紹介した。

最後に奈良大学地域連携教育研究センターで実施している地域の小学校との連携活動について説明し、「子どもだけではなく、大学生を含めた地域の大人が楽しめる企画の実施」が地域活性化のための持続的活動を可能にするのでは、との考えを提示した。

7月31日

地域ブランドとまちづくり ～「愛着」の再生

中原 洪二郎

『地域ブランド』とは、地場産品に地域の名称をつけて販売すること、だけではない。むしろ重要なのは、その構築を通して地域住民が結びつきを強め、地域への愛着を形成することにある。「地域コミュニティの喪失」が叫ばれるようになって久しい。それは居住地域におけるソーシャルキャピタルが軽視されるようになった結果であるが、またそれは産業化や社会構造の変化による当然の結果であるともいえる。「コミュニティ」の喪失が必然的であれば、それそのものの再生を図ることは得策ではない。そこで「特別に目的を供給しない共同体」である単一的コミュニティから、「特別に明らかな目的を共有する共同体」である複合的アソシエーションへの変化を地域社会に促すことが重要になってくるが、その方法論として地域ブランド戦略を活用することが出来る。「住民参加」が地域ブランド戦略においてはきわめて重要であり、そのプロセスがすなわち複合的アソシエーションの構築につながるのである。

【(2) に分類される講座】

〈1〉教職員のための夏の公開講座

《開講年》2003年

《奈良大学担当開講日》8月6日（木）

《募集定員》50名

《会場》奈良大学総合研究棟

《後援》奈良県教育委員会

星野富弘さんの生き方

大 町 公

花の詩画の作者として知られる星野富弘は、大学を卒業し、中学校の体育教師として赴任してまもなく、放課後、クラブ活動の指導中、誤って首の骨を折り、以後、首から下の機能一切を失った。その彼が、絶望のあと、再び生きがいを見出し、希望を持って、力強く生きていくようになった軌跡を、手記『愛、深き淵より。』、詩画集『四季抄 風の旅』などを手がかりに検討した。

負傷後の星野の生き方の中で、最も印象深いのは<受容>、つまり、あるがままの自分を<受け容れる>という姿勢だろう。己れをあるがままに受け容れ、そのとき、何が可能で何が可能でないかを深く考察し、可能なことだけを行おうとする。可能でないことは望まない。しかし、そこには何と多くのものが残っていたことだろう！ 誰にも負けぬほどの喜びもあれば幸せもある。そういう発見があった。

「マクドナルド化する社会」とコミュニティ離れ - 大学で初めて学ぶ社会学入門 -

中 道 實

現代はマクドナルド化する社会である。効率性、計算可能性、予測可能性、技術や規則による人間の統制を特徴とするマクドナルド化は、各社会領域に合理化システムが浸透することであり、M. ウェーバーが予見した「全般的官僚制」の現代版である（G・リッツァ）。

現代人は、生涯のさまざまな時期を家族、学校、企業、地域団体等々の組織に所属して生活する。組織は、マクドナルド化の原理に従って、人々を「集合させ、空間内に配分し、時間のなかに秩序づけ」ている。マクドナルド化は人間社会に多くの利点をもたらした。同時に、人々を脱人間化し、人間関係を非人格化した。そしてそれは、人々を合理性が貫徹する組織から離脱させる「組織離れ」をもたらしている。

地域社会では、地域生活上の包括的な機能を担い、人々の出会いや交流の場である自治会離れ、その他の地域組織からの離脱が拡がっている。住民の絆、相互扶助・信頼が崩れ、生活の疎外・孤立が強まっている。青少年の非行化、子育て機能の低下、老人の孤独等々、一方で危機対応能力の低下、他方で社会協力への無力化・無関心化が起り、地域生活の安心・安全が根底から揺らいでいる。

これを克服する方策は、それぞれの課題に対応して組織された市民活動を通して、信頼関係、互酬性のルールを形成し協力行動を築くことである。マクドナルド化する社会のコミュニティの課題は、自治会を基盤とする「伝統的地域共同体」、あるいは合理的組織の主導によるものではない、自発的・自立的なアソシエーション・コミュニティの追究である。

【(3) に分類される講座】

〈1〉奈良大学・飛鳥保存財団共催事業

『第3回』飛鳥周遊りレウォーク

《開講年》2007年

《開講日》5月17日（日）

《テーマ》～世界遺産登録に向けて～

『甘樫丘から望む大和三山』～謎多き飛鳥の古墳～

《講師》上野 誠 教授

水野正好 名誉教授

《募集定員》200名

《会場》飛鳥駅～飛鳥資料館

〈2〉奈良大学・南都銀行産学連携プログラム

《開講年》2007年

《テーマ》歴史・文化活動を通して、地域の活性化に貢献

《募集定員》各回40名

●平城支店ロビーコンサート

《開講日》9月16日（水）

《演者》奈良大学アコースティックサークル

《会場》平城支店ロビー

●平城支店ロビーセミナー

《開講日》10月19日（月）

《講師》三宅久雄 教授

《演題》2009年 第61回正倉院展の見所

《会場》平城支店ロビー

〈3〉奈良大学・斑鳩町官学連携協力事業

《開講年》2007年

《募集定員》50名

《会場》斑鳩町中央公民館

【第3回】 生涯学習講座

《テ ー マ》文化財への理解を深め、貴重さを認識する

回	開講日	演 題	講 師
1	3月6日（土）	大和の須恵器生産 ～藤ノ木古墳の年代を考える～	准教授 植野 浩三

〈4〉奈良大学・生駒市連携協力事業

【第2回】 市民カレッジ（教養講座）

《開 講 年》2008年

《募集定員》50名

《会 場》生駒市北コミュニティセンター I S T A はばたき

《テ ー マ》大学と連携を深め、市民に学習機会を提供する

回	開講日	演 題	講 師
1	12月19日（土）	「日本」国号の成立	教 授 東野 治之